

もっと女性委員の登用を



柴田 正高 議員

質問 各委員会トータルしての男女比率と委員の選任方法は、町民から公募するなどもっと女性登用を行うべき。男女共同参画への考えは。

答弁(町長) 女性比率が41・5%であり、法律や条例、規則、要綱の規定に従って選任している。委員会や審議会によつては男女の比率にバラつきがあるが、町独自の委員はなるべく多く女性を選任していきたい。啓発も兼ね選挙の立合人を公募したが2、3人

質問 各委員会トータルしての男女比率と委員の選任方法は、町民から公募するなどもっと女性登用を行うべき。男女共同参画への考えは。

答弁(町長) 女性比率が41・5%であり、法律や条例、規則、要綱の規定に従って選任している。委員会や審議会によつては男女の比率にバラつきがあるが、町独自の委員はなるべく多く女性を選任していきたい。啓発も兼ね選挙の立合人を公募したが2、3人

沢目子ども園に専用の駐車場を

質問 沢目子ども園には専用駐車場がなく、その事に対する認識は。隣設する2面あるテニスコートの年間利用状況は。1面だけでも駐車場に転用の考えはないか。

答弁(町長) 子ども園とテニスコートが駐車場を共用しているが、冬場はコート南側に除雪した雪が積み重ねられてさらに狭くなる状況である。テニスコートは平成24年度は1団体1個人で5回の利用であった。利用者

しか応募なかった。平成19年に第1次、平成24年に第2次「男女共同参画基本計画」を策定し取り組んでおり積極的な参画を進める。

答弁(教育長) 男女共同参画の基盤である人権尊重の精神を育てる事を、授業を通して行っている。



子ども園に隣接するテニスコートを駐車場にできないか

質問 財政に重大な影響を及ぼすと考えられるが、リスク負担についての対応策は。町の安易な損失補てんが依存姿勢を強める原因とならないか。町の関与は第三セクター運営の大綱に留め、

質問 町道目名瀉ノ萩ノ台間は、吹雪の時非常に危険であり防雪柵が必要だと思ふが。

答弁(町長) 風雪時は車両通行が困難な区間と認識しており、調査・検討して国の補助事業でできないか県と協議する。

安易な第三セクターへの損失補てんは町への依存姿勢を強めないか

町道目名瀉ノ萩ノ台間に防雪柵を

平成25年度予算審査

平成25年一般会計及び10の特別会計の歳入歳出決算の審査では、議員から様々な意見や要望が提案され、3月19日議会終了後、町長に付帯意見を提出しました。

その付帯意見をご紹介します。

なお、町からの回答については、次号の議会だよりに掲載いたします。

●交通指導隊員等の公募・女性登用について
町の交通指導隊員等では、定員割れのところがあったり、あるいは防災会議などでもっと町民の参加があつてもよいように思われるところがある。
こうした隊員や委員の補充を広報などで一般公募したり、女性の登用も積極的に行うこと。

●非常用発電装置の維持管理について
国の経済対策で設置される避難所施設非常用発電装置は、町内の5小中学校と旧岩館小学校の計6カ所に設置されるが、非常時に作動しないなどということがないように、定期的な試運転を行うなど設置後の維持管理を徹底すること。

●夕映の館等の指定管理について
地域の集会施設の機能をもつ夕映の館や漁火の館は、農村・漁村体験の際の宿泊施設としても利用されているが、町の負担も大きく、他の自治会の集会施設とのバランスも考慮し、指定管理者制度への移行を検討すること。

●プレミアム付き商品券について
町内でのプレミアム付き商品券の発行はこれまで4年間

延べ5回実施され、町民及び商工業者にそれなりの効果があつたと思うが、商工業者も創意工夫をし、もっと販売強化を図るよう指導されたい。

●ぶなっこランドの今後について
ぶなっこランドは、来年度で補助金適正化法の縛りが解けるが、県とも協議して今後の活用計画を早く策定すること。

●生薬栽培の全体計画について
町が昨年から始めた生薬の研究栽培であるが、まだ全体計画すら出されておらず、町が目指す方向が理解できない状態にある。早期に計画の全容を示すと共に、町民にも情報提供を行うこと。

●林道の維持管理について
平成23年度より林業業務は現在の農林振興課に移されたが、災害復旧を除く林道の維持管理は建設課に移った。町民から困惑する声が多いことから、林道の維持管理と林道の災害対応を行う部署を一本化すること。

●ふれあい橋の改修について
沢目駅構内のふれあい橋は駅前とカッチキ台地区の往來の利便を図るために整備されたものであるが、最近では利用者も激減して、維持経費が

重くのし掛かっているのが実態である。エレベーターや自動ドアなどは維持経費がかさむ。これを廃して、スロープを付けたものに改修するなど検討をすること。

●石川簡易水道の町営化について
石川の飲用水は組合で実施する簡易水道事業でカバーされ、町内で唯一単独での取り組みとなっている。将来の維持管理を考え、今から同水道の町有化を呼びかけていくこと。

●あきた白神体験センターの利用促進について
あきた白神体験センターは積極的な営業活動をしているものの、年々児童生徒の減少が続くことが予想されることから更なるPR活動が必要である。幸いにして今年度は秋田DCや白神山の世界遺産登録20周年の年にあたることから、秋田を訪れる観光客の町への誘導を図り、体験センターの利用増進を図ること。

●新生活運動の普及について
町の婦人会活動の中で献花ポスターやお見舞いのし袋などの販売を実施しているが、折角のよい活動が町全体に浸透されていないことから、再度新生活運動の普及を図ることを検討されたい。

2月19日開催された第1回臨時会ではこのようなことが決まりました

専決処分

- 平成24年度八峰町一般会計補正予算(第10号)9,081万5千円追加補正
主な歳出…除雪費、農業基盤整備事業費補助金、一般造林収入の造林者への交付金
*「全会一致」で承認しました。

一般議案

- 土地の取得について
八森地区統合子ども園建設用地として土地を取得することについて、議会の議決を求めました。
*採決の結果 賛成12：反対1(柴田)の「賛成多数」で可決されました。